あなたに出逢えた・・・意味

ma

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたに出逢えた・・・意味

【Nコード】

N4027BA

【作者名】

ma

【あらすじ】

『後悔なんてしたくない』誰でもそう思う言葉。私もその一人。でも、生きていくうえで後悔することは・・・大切なことなんだということを知った。そして、あなたに出逢えたこと。今はとてもうれしいと心から喜べる。

あの日（前書き）

これは、私の人生のほんの1ページです。

あの日

中学2年生の春。

私は彼と出会った。

彼の名前は、T a r o。

「優しい人」というのが第一印象。

そして、私は彼の笑顔が好きだった。笑い声も。

だから、彼に惹かれるのは時間の問題だったのかもしれない。

今思えば、とても初々しい出逢いかもしれない。

目が合うだけで、一日が幸せだと感じていたあの日。

「おはよう」と挨拶をするだけで、2日間はルンルンだったあの頃。

もし、彼T a r oと出逢っていなければ今の私はいないのかもしれない。

好き

あの頃、今のように携帯が普及していたら、
私たちは、ちゃんと「好き」だと伝え合うことができたのだろうか。

思春期だった私たち。

お互い気になる存在になっていたのに…

恥ずかしさが先にきて、お互いの気持ちはずれるばかりだった。

気持ちが伝わった、あの日の教室で

Taroは、「好きです。付き合ってください。」と

勇気を振り絞って、告白してくれた。

私は、「いいよ。」

それだけしか答えられなくて…。

もっと上手に答えていたら、今さら後悔なんてしなかったんだろう
なあ。

いつも、二人が思うこと。

思春期ってやつは・・・むかつくね（笑）

もう少し、恥ずかしいなんて思う気持ちが弱かったら？

今の私もTaroもないんだろうね。

流れていく日々

付き合いだしてからの私たちは…

話をすることも上手にできなくなった。

告白なんてせずに、心に秘めていればよかったんだって後悔したこともしばしあった。

お互いにね。

付き合いだしてから、

クラスマッチ、夏休み、運動会、冬休み、クリスマス、修学旅行、バレンタインデー、ホワイトデー、春休み。

普通に時間は流れて行った。

何の進展もなく（笑）

周りの目が気になって…

話もできなくなって、だけどクリスマスやバレンタインデー、ホワイトデーは

何かしたくて…。

友達にお願いして、プレゼントを渡してもらったけな（笑）

今の私だったら、自分で行動できるのにね。

おかしな関係。

クラスマッチ

私たちの学校では「クラスマッチ」というものがあった。

男子・女子でのスポーツ競技

男子はサッカー・バレー・バスケット

女子はバレー・テニス・バスケット

彼はサッカー

私はバレー

広い運動場で彼の姿を探すのがとても楽しかった。

いくつになっても好きな人を目で追うことは、

なんだか幸せを感じる。

勝敗の結果は、お互いのチームは

最下位でもなく、3位以上でもなく。

宙ぶらりんの位置だった。

あの頃って本当になんにでも頑張っていた気がする。

夏休み

結局：話もできないまま「夏休み」になり。

部活動があるため、たまに学校ですれ違うこともあった。

彼は、水泳部

私は、美術部

美術部の部室は、美術室。

美術室の窓からは、学校のプールが見える。

本当は近くで彼の姿を見たかった。

だけど、そんな恥ずかしいことなんてできなかったんだ、あの頃は。

だって、付き合いだして話ができなくなるぐらいだったし。

運動部って今もそうだけど、

区大会、市大会、県大会がある。

大会出場のための練習ってとても大変なんだろう。

彼は、大会出場のために練習を頑張っていた。

私自身、大会なんて経験はないので、未だによくわからない。

どれだけ、大変なのか…。

部活があるときは、美術室からいつも見ていた。

彼の泳ぐ姿がとてもキレイで。

泳ぎが得意ではない私には、

とてもまぶしかった。

好きだという気持ちだが、彼にばれていなければ
普通の友達で夏休みも話ができたのについて思ったこともあったけど…

これも

また、私にはいい思い出だ。

運動会

中学2年生の頃の運動会って、実はあんまり覚えていない。

彼が出る競技を見ることだけが楽しみだったから。

楽しみなのに：声をかけることができなかつたことは、
今でも後悔している。

『頑張つて』となぜ声をかけられなかつたんだろう。

本当に嫌だ。

今思い出すだけでも、勇気のない自分にイライラしてしまう。

あー！ー！、あの頃に戻れたら、
『頑張つてね』って言えるのに。

しかも、目を見て笑顔で！！

だけどね、時間は戻らないんだよね（笑）

だから、後悔せずに思ったことはやらないといけないって
勉強したんだよね。

冬休み

またまた、何の進展もなく（笑）

「冬休み」になってしまった。

冬休みにどこか出かけようって声をかけたかったのに…
結局それもできず。

友達に、散々怒られた。

でもね、恥ずかしいし、変な噂を流されたくなくって。

あの頃、仲のいい友達は

私に隠れて、彼に「なんで話しかけないの」って怒ってくれていたらしい。

それを知ったのは、30歳を過ぎたころでした。

ただ、クリスマスと彼の誕生日は近かったので、
やっぱりプレゼントをあげたかったから。

友達に付き合ってもらって、

マフラーを買いに行った。

結局自分で、渡すことはできなかったんだけど…
友達が彼に渡してくれた。

彼からもクリスマスプレゼントをもらった。

グレーのセーター。

すごく嬉しくて、友達に抱きついて泣いている私がい

今振り返ってみると、本当に笑えるけど、
思春期らしいっていえばそうかもと思う。

修学旅行

私たちの修学旅行は、スキーでした。

だけど、私は初日に怪我をしてしまい…

スキーを一度もすることなく修学旅行を過ごしました。

この間、彼から

「修学旅行の時の怪我って気を引こうとして自分でやったの?」
といわれ、びつくり!!

なぜ、私がそんなことをしなくてはいけないのかわからず。

当時、いろんなことを言われていたようで…。

時効だろうと思い、彼は私に訪ねたようでした。

ただ、やっぱりあの頃は周りの人たちは、

あることないことをでたらめに言いふらしていたんだなっとな
知った日でもありました。

だから、好きだとばれたことを後悔したけれど…

付き合いだしたことを後悔したけれど…

話ができなくなったことを悔やんだけれど…

今考えれば、変な噂を流されなくて良かったと思いました。

バレンタイン

バレンタインデー・ホワイトデーって
恋人同士だけのイベントじゃない。

でも、やっぱり好きな人にチョコレートを渡すのって大切なこと
って思ってしまう。

唯一、自分に自信をもてる日って感じで。

私の子供たちも、ワクワク、ソワソワしている時期だけど。

当時の私もそうだった。

今だったら、簡単に手渡しができるのにね。

いつ渡そう、もう朝からドキドキだったのを覚えている。

最初で最後（中学時代）
頑張った私がいたなあ。

彼が来るのを靴箱で待っていた。

その日は、タイミングよく一人で帰っていたから。

なんで、その時に一緒に帰らなっただろう。
と今は思う。

だけどね、彼の家ですごく学校から近かったから、
さすがに送ってなんて言えなかったんだよね。

今なら、送ってよって言えたかもね（笑）

そうそう、ちゃんとホワイトデーのお返しももらった。
クッキーだったかな。

大事に大事に食べたこと覚えてる。

クラス替え

結局：話ができなくなって春休みがきた。

そして、中学3年生。

クラス替えだ。

同じクラスになれたらと願いつつも…
話ができないなら同じかなって。

結果、隣のクラスだったけど、
クラスは分かれた。

ほっとしたのか、悲しいのか、
なんだかわからない気持ちでいっぱいだった。

クラスが分かれると接点はあまりなく…。
朝、早く学校に行つて教室の窓から、
彼が来るのを見ているだけだった。

中学3年ともなると、高校受験。
どこにいくとか相談したりできたはずなのにね。

3年生は、運動会が終わったら本格的に、
受験勉強へと入る。

最大イベントだった。

学年全体での遊戯演技というものがあり…
よりにもよつて「フォーケダンス」だった。

当時の先生が、この学年は男女ともに仲がいい。
それをアピールするのは、もってこいという状況。
先生たちの独断と偏見で、「フォークダンス」になった。

でも、みんな楽しんでた。

だって片思いの人も両思いの人も、

好きな人と触れることができるから。

だけど…私たちは、なかなかそれが叶わなかった。

その時ばかりは、神様って意地悪だと思った。

ただ、一度だけ一緒に踊れたけど…

お互い、話もできず…

友達たちは、終わった後、事情聴取なみに聞いてきたけど…

沈んでいる私の姿を見たときには、優しく背中をたたいてくれた。

だから、こんな悲しい思いするなら…

別れたほうが楽なんだって勝手に考えてしまって、

受験勉強があるからという意味もない理由で、

彼と別れたんだ。

そう私から。

中学卒業式

別れてから、彼と話をすることもなく卒業式がきた。

ああ、もう彼を見ることはなくなるんだ。これで、終わりなんだなあと思うとやっぱり悲しくて…。

別れを言い出したのは、私だけど彼が好きだった。

本当は別れずに卒業して、高校生になっていっばい出かけたと思って…。

私の変なプライドで後悔ばかりした。

第2ボタンも、
もらうことができなくて。

幼い淡い恋は終止符を打った。

あの時、もっと私に自信があったら、
勇気があったら、後悔しなかったんだろうか？？

だけど、もし勇気があって彼に私の気持ちをぶつけていたら？？

今の私と彼Taroはいないんだ。

ラブレター

高校へ入学してからは…何の接点もないまま時間だけが過ぎていった。

彼は、男子校

私は、女子校

学校の方向も正反対。

だから、出逢うことなんてなく。

私は、彼Taroを忘れるために別の人と付き合ったりもした。けれど…やっぱり、彼を忘れることなんてできず…。

彼に手紙を出した。

「ずっと、忘れられないです。

今でも、好きです。」

普通なら、重い手紙だったに違いない。

だけど、彼は真摯に受け止めてくれた。

その手紙をきっかけに、私たちはもう一度付き合いました。

今度こそ、楽しい思い出をたくさん作ろう!!

でも、学校も違う。家の方向も違う。

生活リズムも違うから、なかなか逢うことはできなかった。

だから、私たちは、週に2回の手紙のやり取りをしていた。

ポストを除くと彼の字がそこにある。
本当に楽しい日々だった。

2か月に1回、逢ったりして。

映画に行ったり、ボーリングにいったり。
ビリヤードもした。

私は、ビリヤードなんてしたことがなかったので、
彼は、ルールを1から順に教えてくれて。

手を繋ぐことがやっぱり、恥ずかしかったんだけど、
帰り際は、必ず握手で「バイバイ」

お互い、その手を振りほどくことができず…
5分ぐらい握っていたのを覚えている。

今は、触れることも手を握ることも、肩を組むことも、何とも思わ
ないのにな。

いじめなさい

中学の頃と違い、少しは私の気持ちを彼に伝えることができた。だから、本当に毎日が楽しかった。

だけど・・・

また私のプライドが邪魔をした。

彼の成績が下がっていると、

彼の友人から聞いたとき・・・

私の心がグラついた。

私のせい???

私のせいではないのに、勝手に私と付き合っているからかとも思い込んで・・・

彼に

「友達に戻った方がいいんじゃないかな??」と電話していた。彼はびっくりしていた。

沈黙の後、

「わかった。ありがとう。」

で私たちは、受話器を置いた。

自分でまた切り出したくせに・・・

悲しくて悲しくて、一人泣きはらした夜だった。

この間、彼T a r r oと当時のことを振り返り話をした。
なんで、今も連絡をとっているのかは、この先の話。

当時なんで頑なになっていたんだろ???

って話をしながら…

その頃の気持ちを打ち明けたら、

なんでいつも、一人で考えちゃうのかな??

でも、それがm a c h a n d a もんね。

って笑われた。

最後には、

でも、いいかあ。

今ちゃんと逢いたいときには逢っているしね。って

不器用な優しさでいつも包んでくれる彼がとても愛おしく思えた。

就職、進学

その後私たちは、連絡を取ることもなく
お互い別々の道を進んだ。

彼は、進学

私は、就職

高校を卒業してから、何度か手紙のやり取りはしてた。

お互いに好きだったという気持ちは過去のものになりつつあり。

就職してからの私は、社会に慣れるために切磋琢磨していた。

進学した彼も、勉学に励んでいたと思う。

私たちはいい友達のまま、お互いに恋愛し自分自身を磨いていた。

ある時、私が家族と喧嘩をした際に家を飛び出したことがある。

その時の彼は、友達が家に来ていたのに私のところに駆けつけてくれた。

家の鍵も、財布も持たずに飛び出した私に何も言わず、
ただずっとそばにいてくれた。

あの頃から、彼は私の心の支えだったんだ。

いいや違う。

彼と出逢った中学2年の頃からだ。

この時に、私たちが恋人同士になっていたら、

今の人生は全く違ったものになっていただろう。

時々、二人で中学2年生からやり直したいねっと話すことがある。
私たち二人には、大切な思い出。
私たちが二人にしかわからない気持ち。

だけど、もしあの頃いっぱい話せていたら、
今、私の心の支えは、彼ではなかったかもしれない。
そう思うと…すれ違いがあったからこそ、遠回りをしたからこそ、
大切な彼に出逢えたんだと私は思う。

結婚します

私たちは、いい友達としての関係を大切にした。

だけど、私が結婚をすることになってから、

彼と連絡が取れなくなった。

というよりも、取らなくなったといった方が正しいのかもしれない。

結婚が決まり、結婚式の1か月前に彼と逢った。

その時、彼は冗談を言いながら、

「俺と結婚する予定だったんじゃないの??」と笑っていった。

私も

「そうだったよね〜だけど違ったみたい〜」と笑って返答。

寂しさを隠す彼の背中を見たのは、それが初めてだった。

いつも、笑っていた私たち。

一緒に居たら、寂しさも忘れられる仲だった。

だけど、私のお腹には彼ではない別の人の赤ちゃんがいた。

彼は、私の結婚をショックだったと今いうが、

ちゃんと祝福してくれた。

それからの私は、子供と旦那さまと楽しく暮らしていた。

だから、彼のことを思い出すことはあっても

逢ったりすることはなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4027ba/>

あなたに出逢えた・・・意味

2012年1月12日11時02分発行